

ね n Affiliated with the International Association  
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI  
Chartered October 30, 1994



〒 192-0906  
東京都 八王子市北野町 575-22  
並木 真 TEL : 090-4314-3044  
Fax: 042-649-5276  
E-mail : m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2023年12月

The Service Club of The YMCA

第342号

# 東京八王子ワイズメンズクラブ

会長 並木 真 副会長 久保田 貞視 書記 小口 多津子 会計 長谷川あや子 直前会長 花輪 宗命 担当主事 菅野 牧夫 ブリテン 山本 英次 茂木 稔 大久保 重子	国際会長 ウルリック・ラウリドセン (Denmark) 主題「輝かそう、あなたの光を」 スローガン「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」 アジア太平洋地域会長 利根川 恵子 (川越) 主題:「変革のための光となろう」 スローガン「親睦を通して、輝き、力を得よう」 東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題:「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに会おう！」 スローガン「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」 あずさ部部長 森本 俊子 (長野) 主題「よい結果をもたらす心の安定と考える力を」 ~面白いと思えることを再発見しよう~ 八王子クラブ会長 並木 真 主題「リアルな活動とつながりを！出来ることをやる！」
--	---

## 12月例会プログラム

### 【クリスマス記念例会】

(担当:B班 望月、久保田、花輪、並木真)

日時:12月 9日(土) 17:00~20:00

会場:大学セミナーハウス

### 第一部 クリスマス例会(17:00~18:00 交友館セミナーB)

司会:望月隆珉 奏楽 阿部智世・バイオリン

\*開会点鐘 会長:並木 真

\*前奏

\*讃美歌 109番 一同

\*奨励・祈祷 八王子ベテル教会 千原 創牧師

\*讃美歌 第二編 167番 一同

\*後奏・黙祷

\*報告事項・連絡事項 会長・各委員

\*開会点鐘 会長:並木 真

### 第二部 懇親会(18:10~20:00) 旧食堂

司会:久保田貞視

\*開会挨拶 会長 並木 真

\*ゲスト紹介 会長 並木 真

\*ご挨拶

・野々垣 健五 様

(甲府21クラブ・山梨YMCA理事長)

・柳原 絵里子 様

(ひつじも OB 会会長)

\*乾杯

・田中 博之 様

(東京多摩スマイルクラブ)

\*会食(弁当)

暫し 団らんと懇親

### ○ ミニコンサート

☆ ピアノ・バイオリン二重奏

ピアノ 永町 匡世さん

バイオリン 阿部 智代さん

☆ ピアノ演奏 永町 匡世さん

☆ “みんなで歌おう”

\*ハッピーバースデー

\*スマイル(多摩いのちの電話のために)

\*閉会

\*記念撮影



## 国際大会及びアジア・パシフィック大会顛末記

久保田貞視

今年の第30回アジア・パシフィック地域大会は11月3日から5日まで香港で開催され、クラブからは並木真会長と二人で参加しました。

大会初日の3日午前中は並木真ワイズと東京スマイルクラブの為我井ワイズと3人でビクトリアピークに登り、上環の野菜の種の店を覗き、近くを散策しました。午後から大会の開会式に続き、次期国際会長による地域会長、次期地域会長の就任式が行われ、続いて各種ショーがあり、懇親会に入りました。懇親会の席では台湾のクラブが同席していました。

翌日は3人で朝食の後、自分は恥ずかしながら転倒し、近くいたワイズの方にお世話になり救急車で病院に入院し、2日目・3日目の大会には参加出来なかったのは残念でした。

これまで、ワイズの国際大会及び地域大会には1997年の韓国・済州島でのアジア地域大会に参加以来、国際大会は2000年の香港での国際大会以来継続して参加しており、国際大会には10回、アジア地域大会(2017年からアジア・パシフィック地域大会)には11回参加しました。

国際大会や地域大会ではそれぞれ各国ワイズの努力により、趣向を凝らした有意義な大会がもたれました。特に、2012年のノールウェイ国際大会では、晩さん会に現地のワイズが、参加した外国のワイズメン・メネットを各8人自宅に招待し、ワイズ仲間の漁業関係者が大きな鮭を一匹づつ配り、各家庭で料理して振舞われ、10人で食卓を囲んで歓談出来ました。また、わがグループは自宅付近の昔使用された港の見える見晴らしの良い丘の上の火の見櫓まで散策してくれたことが強く記憶に残っています。

今後は功嘯も進み、好きな海外でのワイズの大会に参加できるか不詳ですが、今回を別として、外国のワイズメンとワイズのEMC,CS,キリスト教、ワイズとYMCAとの連携など各分野グループ別の意見交換会や交流を通じ、親しくお付き合いできたことは良い経験であり、各国ワイズの心配りと親切さに感謝しています。



## 中央大学ひつじくも白門祭を訪ねて

小口多津子

11月6日に多摩モルール線の中央大学・明星大学駅に、ひつじくも委員長の大山 希さんが迎えて下さり、山本英次さんと白門祭を訪ねました。花輪宗命さんは前日に訪問されていました。この日は一緒にひつじくもの先輩方である白羊会の方々もご一緒でした。時は流れても、中央大学ひつじくものサークルは、白羊会という、なんと100年の歴史がある先輩方と今も繋がっている、歴史を受けて、次に繋げていくこと、このことだけでも驚きです。モルールから直結した校舎への道、沢山の白い建物が並び、広いメインストリートに、各サークルのブースを見ながら、ひつじくものコーナーへ。国際ボランティアの取り組みとして、展示のタイトルが、「食べれます美味しい料理」・異文化に触れて日常を味わうがコンセプトで、世界の食べ物紹介のメキシコの「トルティーヤ」を作っていました。



ひつじくもメンバーが手際よくさっさと、薄焼きの皮に、チリソースの入った具材を巻いて、その味が美味しくてびっくりしました。今年から法学部全部が都心の茗荷谷に移ったので、こうした機会にしかメンバー交流が出来ないそうです。後はオンラインの話し合いとのことですが、とにかく、いつも雰囲気は兄弟姉妹のようなひつじくもです。もう9年ほど前の2014年のことですが、東京八王子クラブが設立20周年記念会を開く計画の中で、日時、会場も決まりました。記念講演会に、中央大学教授総合政策学部教授の目加田 説子先生にお話しをお願いすることになりました。その打ち合わせの為に、大学の研究室へ久保田貞視さんと一緒に伺ったことがあります。高台にあるお部屋で、ゼミ卒業生がプレゼントして下さったばかりというコーヒードリップ器具からの美味しいコーヒーをご馳走して頂きました。その20周年式典でのご講演は、「世界の平和を脅かす根源」というタイトルで、JCBL 理事の立場から、地雷の恐ろしさをお話下さいました。私は白門祭で訪ねるたびに、目加田先生の研究室のことも忘れられない思い出になりました。まわりは広大な森、この高台の白い建物と共に忘れられない大学生活が4年分ぎっしりと詰まっています。その後の長い人生で、折に触れて出てくるその4年間、そのことがどんなにか、かけがえのない宝物となることでしょう。

## ひつじぐも特集

### 2024 年度 中央大学国際ボランティアサ

#### ークル ひつじぐも 幹部挨拶

##### 委員長(共同代表):青山眞之介

ひつじぐもの次期委員長かつ共同代表として務めさせていただきます、法学部政治学科 2 年の青山眞之介(あおやましのすけ)です。

秋田県生まれ東京都育ちで、中高 6 年間卓球部に所属していました。趣味はサッカー観戦(主に欧州)、ゲーム、漫画を読むこと、登山など、他にも色々あります!

今年はいよいよコロナ以前の日常生活が戻ってきたこともあって、対面での活動が格段に増えました。そのため活発に楽しく活動のできるサークルを目標に、こうした活動をさらに盛り上げたいです。また自分ひとりだけで遂行するのではなく、ほかの幹部や会員と協力して頑張りたいです。よろしくお願いします!

##### 委員長(共同代表):藤原直輝

皆さん初めまして。法学部 2 年の藤原直輝(ふじわらなおき)と申します。これから共同代表として頑張っていきたいと思います!

先輩方が築き上げてきた活動をしっかりと引き継ぎながら、ひつじぐものメンバーと共に、また新たな活動の幅を広げていきます。これから何卒よろしくお願い致します。

##### 副委員長:轟千佳

こんにちは。ひつじぐもの次期副委員長を務める、法学部政治学科 2 年・轟千佳(とどろきちか)と申します。

千葉県出身かつ在住で、小中学校では吹奏楽部に所属していました。現在はひつじぐもと同時に鉄道研究会に所属し、仲間と/あるいは 1 人で時々鉄道旅行を楽しんでいます。「多くの会員にとって居心地の良いサークル」としてのひつじぐもを守っていけるよう、他の幹部や会員とのコミュニケーションを大切に頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

##### 副委員長:折原美結

ひつじぐも次期副委員長を務めさせていただきます、総合政策学部政策科学科の 2 年の折原美結(おりはらみゆ)です。

神奈川県出身で、中学では合唱部に、高校では人形劇部に所属していました。趣味はドラマを見ることです。

これまでのひつじぐもを引き継ぎ、より多くの方に、また参加したいと思って貰える活動になるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 2023AYC ネパール大会報告

#### 轟千佳 さん (法学部政治学科 2 年)

皆さんこんばんは。本日は、私共の報告を聞きにご列席賜り、誠にありがとうございます。私たちはワイズメンズクラブやひつじぐもからご支援いただき、ネパールで開催された youth convocation に参加しました。今年の AYC に参加した日本の学生からの報告が各地で行われてきましたが、いよいよ我々で最後となりました。

私からは、特にほかの参加者がまだあまりフォーカスしてなかった各 Session、つまり AYC の活動期間内に行われた講演とそれについて私が考えたことを報告したいと思います。



その前に、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、ひつじぐもの会計を担当している轟千佳です。中大の

2 年です。スライドの背景の画像は趣味の関係で、今

年買った青春 18 きっぷを新潟県や長野県を通る飯山線の車内で撮影したものです。今年、長距離を日帰りで旅することが好きになって鉄道研究会にも所属し始めました。

しかし、AYC のために行ったカトマンズには全く電車が通っていませんでした。(笑)それでもほかの参加者が報告していたのと同じようにカトマンズでは考えることが多く、電車がない地域において、自分にとって充実した 1 週間を過ごすことができました。



その AYC の概要をまとめたのがこのスライドになります。

まず時期 (8/25-29) につ

いてですが、ちょうど雨季から乾季に移行する頃だったためか、私はプログラムの後半になると砂埃が舞い始め喉を悪くしました。そして、参加者は全部で 38 人、5 つの国と地域から集まりました。香港グループは、香港の縮図という感じで、他の国例えばカザフスタンやインドネシアからの



優秀な留学生も含まれていました。主な内容は「観光」「多文化交流」「Session(講演)」の3つでしたが、私はせっかくなお時間を頂いているのでまだ他の人が話していないことを話すべく、一番下の「Session」にフォーカスしたいと思います。

Sessionは期間中に4回行われました。4つの講演とは、順に「未来志向型のリーダーシップ」「目的ある社会奉仕活動」「国際的な課題の傾向と、若者にできること」「効果的なパートナーシップ」です。これから1つずつ、講演の概略と私個人が考えたことについてお話しします。

最初のセッションでは、アジア太平洋地域の当期 youth 代表等を務められている Alyssa に、望ましいリーダーの在り方について講演頂きました。

彼女の言う Visionary Leadership とは、未来志向・前向き・意志が強い、というような性質です。

このようなリーダーになるためには、自分自身をよく知り、自分の能力開発を行うことも必要だとおっしゃっていました。

この講演を聞きながら、わたしが考えたこととしては、「自己分析をしたうえで自分自身を成長させるというのは、未来志向型リーダーでないすべての人間にも重要なのではないか?」ということです。例えば自分は何かにつけてもリスクばかりに目が行くネガティブ思考で、小学生のころから学級委員なんかもしたことがなく、彼女が話していたようなリーダーには合いません。それでも、自分の強みを知って強化すればリーダーでなくとも組織に役立てる存在意義のある人間になれるはずです。

基本的に自分は裏方の仕事とか、細かいことに気づくことが必要な仕事が好きな傾向にあると思ったので、今年の白門祭ではひつじくもの会計の係長をやらせてもらいました。

白門祭で模擬店を開くのはひつじくもとしてかなり久しぶりで前例を知っている先輩がいなかったのですが、先回りして会計に必要な仕組みを考えたりするのは楽しい経験になりましたし、会計の面で滞ることも少なく済みました。

少し話がそれてしまいましたが、この講演とそれを受けての私の行動が、自分にとってどのように有益だったかというと、自分の解釈も含むのですが、前向きだろうとネガティブだろうと、自分が組織のためにできることは探せばある。裏を返せば、リーダーにならなくても自己分析と自己研鑽は常にしなければいけないのだと気づきました。

続きまして、第2の講演についてです。そこでは、具体

的な社会奉仕活動の進め方について知ると同時に、社会奉仕活動の効果を上げるためには、大きく分けて二つのことが必要だとわかりました。

1つ目は準備の段階で対象となる課題を設定すること、2つ目に計画性を持って段階的に行動に移すことです。

今は時間がなくて詳細を説明することはできませんのですが、この講演の軸は、「双方向性を大切にしよう・自己満足しないようにしよう」ということなのではないかと個人的に解釈しました。

ひたすら漠然と「社会をよくしたい」と思って活動していても、なかなか効果は表れず自分のモチベーションも下がってしまう。ということは、私もNPOでのボランティアの経験から得ている認識です。そのため、明確な目標と計画を持つことの大切さについては共感するものがありました。

また、自分の社会的評価を上げたい。つまり「自分のためにボランティアをしよう」と思っている人も、困っている人々のニーズに合わなければ活動が無駄になるか、逆効果になるだけだと思います。ただ何となくボランティアをするのではなく、行動する前と後にも計画と振り返りを行うことで、より建設的になるのではないのでしょうか。

本当の意味での社会奉仕をどう具現化するかが、この講演に詰まっていたと感じます。

3つ目の講演では、フィリピンの Cristina さんに、まず発



展途上国の健康や環境汚染、教育格差の深刻な問題について非常に熱心に解説してく

だしました。その後、このような問題のある国際社会で若者が必要であるということや、何をするのが理想的かを話してくださいました。

若者が頑張らなければいけない理由の一つが、世界人口に占める若者の数が多いからだそうです。

それを聞いて、私は視野が広がって希望にあふれた感覚になりました。

基本的に社会奉仕できるほど豊かな先進国においてはむしろ少子高齢化が課題で、数の面では若者は弱いと思っていました。けれど、世界に目を向ければ、若者の影響力が弱いということは根本的に異なり、自分たちには可能性があるのだと感じました。日本の若者は少ないけれど、世界の若者とつながればとても力が強くなるということです。

では、国際的な課題のために我々若者は具体的に何をすべきかという、講演者の Cristina に言わせれば、平和的な抗議活動や、基金集め、若者自身による体験型学習などが挙げられます。



いずれにせよ、私は、日本人が国際協力を果たしたり、反対に、海外から日本に向けて支援してもらうには日本人の英語教育の適切化やレベルの向上が喫緊の課題であると感じます。一般的に言われるように、日本人の平均的な英語力には問題があるし、私自身も実際に今まで国内で英語の勉強を頑張って英検・TOEIC・定期テストで頑張ったなりの結果を残してきたのに、ネパールでは歯が立たなかったからです。

それから、日本人の一般的に言われる性質上、主体的に行動することが珍しいです。その原因の一つに、自分が世界で活躍しているビジョンがわからない、ということがあると思います。そのため、世界で活躍する日本人のロールモデルを示し、多くの人に共有することが大事ではないかと思います。

最後の講演では、youth 代表の Krishnan が課題解決に



における協力・協働・連携の偉大さを教えてくださいました。企業同士や、

それだけでなく様々なレベルにあり得る協力のすばらしさについて話してくれ、一人ではできないことも複数集まれば可能になることを説いてくれました。

その後、実際に大企業の社長になり切って自己紹介をし、具体的な連携政策を考えるパートに移りました。そこで、最初にロールプレイングのお手本を募られた時に日本からの参加者が手を挙げ「@@会社の##です」と、会社・自分の名前の順に自己紹介しました。すると、講演者の Krishnan は、「会社名からではなく、名前から紹介するように」と指摘しました。なぜなら「自分のアイデンティティは会社に依拠させるのではなく、自分自身に依拠させるべきだから」というのです。これは、partnership の講義の本筋からは離れてしまい、彼も大々的に言ったわけではありませんでした。

ただ、私はこの考えかたに最も感銘を受け、聞いた時からぜひここで報告したいとばかり考えていました。もちろん会社の一員としてのアイデンティティを持って看板を背負って他社の人間と交渉するのは大切なことです。しかし彼の考えは、就職活動を控える大学 2 年の自分にとって大きな示唆を与えました。

お金や名声のためなら、いわゆる一流の企業を狙えばいいわけですが、もし入社できたとして「この企業に勤めている自分」だけを自分だと認める、つまりアイデンティティを会社に依拠させることにひねれば、一人の生身の人間として幸せではないのかもしれないと思いました。飾らない状

態の自分を自分だと認める、つまりはありのままの自分を受け入れる・肯定することが自分の学生時代の最大の目標になりました。

- 自分の報告を総括すると、私は
- ・AYC で自分が組織で果たしたい役割を明確にすることができ
- ・社会奉仕活動のあるべき姿を再確認し
- ・視野を広げて若者の可能性を感じ
- ・学生時代に果たしたい目標を持つことができました。

このような機会(AYC2023 に参加すること)を設けてくださった皆様には、感謝してもしきれません。また、報告会があることによって、自分の考えを整理することができました。本当にありがとうございました。

### 藤原直輝 君 (法学部2年)

本日は、私がネパールで学んできた事をお話します。このお話は、私だけではなく皆さんとの未来にも関わるお話です。まず初めに、4.5 倍この数字は何の数字だと思いますか？ 正解は、医療費



の自己負担額です。ネパールと日本では約4.5 倍の差があります。日本では簡単に受けられる病院でも、現地の人にとっては最後の砦

となっています。実際にネパールの友達の家族が 40 度を超える熱になった時も、すぐに病院に行くのではなく一度隔離をして様子を見るそうです。

高額費用、インフラ不足、地域格差、これらの問題が発生している場所はどこでしょう？ 正解は私達が通っている学校です。ネパールでは学校に通うだけでこれだけの問題が発生しています。多くのネパールの方が英語を話すことが出来たのですが、これは英語の教育が進んでいるだけでは無く、英語を使えなければ将来職を得ることが出来ないからだそうです。

私達は3日目に現地のホームレスの方々にお会いしてきました。彼らは、国の支援が届かない為、ホームレスから抜け出すことが出来ないそうです。日本には、生活保護制度が充実している為、ホームレスを止めることが出来る可能性が残されています。



今回の AYC2023 には世界中の国の人達が来ていました。そして、



現在発生している様々な問題について教えてくれました。その中でも、戦争、民族、デモは深刻な問題であり、香港から来られた方によると、夜眠りにつく前に明日戦争になっていないか本気で心配する日があるそうです。

ここで私の旅のお話をします。一枚目の写真はネパールの街を見回した時の写真です。標高が高尾山と同じくらいなので、ほぼ高尾山で生活している感じになっていて非常に過ごしやすい環境になっています。この写真(2枚目)は現代の街中と昔の建物が混在している景色です。日本での京都に似た町並みを見ることが出来ます。この写真(3枚目)の中には日本には「あるもの」がありません。正解は、信号機です。この写真(4枚目)はネパールの伝統的な食事です。全て中辛ぐらいでとても美味しかったです。4枚目の写真は、実はレストランで撮った写真なのです。ネパールではお店の中でダンスを踊ることが出来ます。皆さんで楽しみながら過ごす文化を感じることが出来ました。



ルの街を見回した時の写真です。標高が高尾山と同じくらいなので、ほぼ高尾山で生活している感じになっていて非常に

過ごしやすい環境になっています。この写真(2枚目)は現代の街中と昔の建物が混在している景色です。日本での京都に似た町並みを見ることが出来ます。この写真(3枚目)の中には日本には「あるもの」がありません。正解は、信号機です。この写真(4枚目)はネパールの伝統的な食事です。全て中辛ぐらいでとても美味しかったです。4枚目の写真は、実はレストランで撮った写真なのです。ネパールではお店の中でダンスを踊ることが出来ます。皆さんで楽しみながら過ごす文化を感じることが出来ました。

ここで質問です。私が先ほどお話した問題を幾つ覚えていていますか？全て覚えている人は少ないと思います。このように私達は世界の問題について学んだ後に学びを受けて感銘を受けた後に、それを普段の生活で上書きしてきた事を思い出しました。だからこそ、学び続ける環境を築くことが大切です。私達大学生では何も出来ないのでしょうか？いや私達にも出来ることがあります。それはパートナーシップを活用することです。パートナーシップとは



さんが身につける力が3つあります。1つ目が自主性です。自ら挑戦してチャン

スを作る必要があります。2つ目が柔軟性です。問題を解決する為には、時に異なった考え方や直面することがあります。その時に、一度考え方を受け入れることが必要です。3つ目が度胸です。最後はリスクを恐れず挑戦する必

要があります。そして、この力は将来に渡って必ず私達の力になると信じています。ご清聴ありがとうございました。

### 藤原湧介 君 (法学部 2年)

では僕の報告を説明させていただきます。

まず、僕とは会ったことがない人がほとんどだと思うので自己紹介から始めさせていただきます。

中央大学の法学部2年の藤原湧介と申しまして、今ひつじくもとは別に登山系のサークルにも入っていて、結構そっちの運営だったりとか、土日に登山をしていると、あまりひつじくものサークルの活動とかボランティアとかそういった活動に



力を入れられていなくて、サークルの人とかも、今ワイズの人たちも会ったのが初めてだと思うんですけど今日はよろしくお願ひいたします。

あまり活動に参加できなかったのも、今回が初めてのワイズのひつじくもの活動でAYCに今回参加しようと思った経緯は、やっぱりさっきも言った通り、ひつじくもに入っているのに個人的に思うような活動ができていなかったことだったり、そんな時にこのAYCの募集が来ていて自分自身、国際関係とかに興味があったのでぜひ行ってみたいかなと思う気持ちだったり、国際的な文化交流を通じて視野を広げることができたり、自分の将来に対する選択肢や考え方を豊かにできるのでぜひかなと思って参加しました。

その私が今回AYCに参加して思ったことや感じたことを紹介していきたいです。

この写真はAYCで撮った写真なんですけど、AYCではパートナーみたいなのを作って、その二人で色々な身近なことだったり世間話からコミュニケーションを取っていろいろみたいなのがあってこの子はタイ人のカテンという名前の子でとても仲良くなって、AYCが終わった後もタイでは結構LINEとかが使われてたりして、少し会話をしたりしています。

AYCに参加して他の国の参加者と交流をして感じたことは多くありますが、一つは日本文化の人気度だったり、日本文化をみんな他の国の人たちが知ってくれていて、すごく嬉しく思いました。

地理的に近い香港とか台湾はじめとしたネパールからの参加者たちも日本の文化を知っていて、日本の文化といってもアニメの話だったり漫画の話だったりとかそういう話だったんですけど、すごく嬉しく感じました。

また、2日目の文化紹介の時に、お菓子部門の紹介で

日本からはせんべいとかそういうスナックを紹介したんですけど、おにぎりせんべいっていうのかな、これを渡した時にライスボールだみたいなのを言って、結構おにぎりとかもそういうのも知られているんだなと思いました。

また、こういった浴衣とかも着て日本の文化を紹介できたことは良かったと思います。

僕たちは英語に対して他の参加者よりも不自由だったりディスアドバンテージがあったんですけど、こういった日本でしかないゲームのかと思うんですけど、シトリみたいなのを英語でやったり、動画にしてみたんですけど、映らなかったのでも口頭で説明すると、ありがとうだったりごちそうさまとか。これは食事の内容だったのでいただきますとかごちそうさまだったり、そういう日本語を教えたりして、そこから英語のディスアドバンテージを挽回してそういうところからコミュニケーションを図れたのはとても良かったです。様々な面から日本を共有できて、日本人としてとても嬉しく感じました。



次に学んだセッションの内容を話したいと思います。さっき、轟さんがいろいろとセッションの内容を大きく紹介していたと思うんですけど、僕はその中でセッション2のイノベティンングインパクト・サービス・ウィザーパーパスという、ドワイト・リンソンさんのお話を紹介したいと思います。

これは日本語で言うと、影響のある改革で目的を持ったサービスというような内容だと思うんですけど、これは主に意義のあるボランティア活動を行うためにはどうすればいいかという話でした。

話の内容は昔は自然豊かだったけど、今は都市化とかで公害とかが発生していて、公害や環境汚染の対策として木を植え始めるみたいな簡単なボランティアの例題を用いて説明してくれたんですけど、そういう効果的なコミュニティサービスを提供するためにはまずそういう環境問題だったり社会問題を選択して現場のコミュニティの実情やニーズを把握して目の前の課題を明らかにすること、そして次に対処する問題を絞り込んで解決のための木を植えるだったり、そういう計画の立案をすること、そ

してその計画を実際に実行してみることで最後にその行動を実際に行ったボランティアだったりとかを評価して次に活かす改善点を出したりするって。

このサイクルは意義のあるボランティアや奉仕活動に対してとても重要だと話していました。

これは一見すると多分 PDCA サイクルといったようなものと同じだと思うんですけど、小さな活動、ボランティアとか小さな活動でも丁寧な計画と評価だったり、こういうサイクルを繰り返していくことで意義のあるボランティア活動だったり、奉仕活動のプロジェクトができるということを学びました。これには、コミュニティニーズに対応した計画性と評価とか改善が重要だと思います。

先ほど自己紹介のときに話したんですけど、もう一つ僕、登山サークルというものに入っていて、登山をやっているんですね。

そのときに登山関係のボランティアの活動として、個人で山のゴミを減らすみたいな、そういうゴミ拾いのボランティアの活動に参加したことがあったんですね。

結構日本って山が今富士山とか上高地だったり、自然が観光地化してきていてそういうところには結構ゴミが落ちているので、せっかく自分がサークルとして山に登っているわけだから、そういうボランティア活動を行って、さらにそれを自分が入っているサークルの全体として活動として広げていきたいなと思っていました。

そのときにこういった話を聞いてとても意味のある話だなと思いました。

僕は個人で行った山のゴミ拾いのボランティアサークルをサークル全体に広げるために自分でサークルの活動としての環境保護だったり、そういう目的を持たせることで活動の目的を明確にしていつ自分のサークルの登山の計画に組み込んでボランティアをするかみたいなことを考えていて、これを実行してみる段階に進む感じなんですけれども、冬になって登山はやりづらくなってしまうので、来年度以降自分が行った山のゴミ拾いボランティアの活



動をこういった学んだ PDCA のサイクルに照らし合わせてサークル全体に広げてみたいと考えています。

このようなことを考えられて、面ではとても勉強になりましたし、自分がやりたいことに活かせると感じました。

最後にスライドを作っていました。



AYC の全体の目標が、リーダーシップを発揮する国際的なユースとして何ができるかという議題だったんですけれどもこの AYC の中で自分が感じた国際的なリーダーズを話したいと思います。

僕は日本人の他の参加者みたいに、ワイズの活動に参加していなかったのがリーダーとしての実績がなくて振る舞い方や在り方がわからなかったんですけれども、今回参加して日本からの参加者含め、他の国の参加者からもリーダーとしての在り方を多く学びました。

例えば日本人の参加者でいうと東日本区の参加者の丸山圭さんか西日本区の石井昭也さんが Most Vibrant Delegation というリーダーとして盛り上げたという賞をもらったように、その場を盛り上げて、失敗の危険を顧みずにみんなを先導していくようなリーダー像も学びましたし、反対にそういったリーダー像には適性があるように、僕にとっては少し難しいのかな、と感じたり思ったんですけれども、

実際にディスカッションの中で自分の英語が不自由で話したい英語が出てこないときに、他の国の参加者が簡単な別の角度から質問をしてくれたり、新たな問いを投げかけてくれたりすることで、自分の答えやすいような質問を出して、その中で意見を先導してみんなを支えていくというリーダー像もあるのかな、と考えました。

このようなリーダー像の方が僕には合っているのかなと思ったので、こういったのを普段の活動だったり自分のサークルだったり、これからいろいろ参加したいと思っているヒジグモの活動の中でも活かしていけたらなと思います。これらの真面目な勉強の内容だけじゃなくて、今回 AYC で参加して海外の雰囲気だとか文化だとか、いろいろなセッションが終わった後にもご飯を食べに行ったり発展途中の街並みを散策したりして、そういったいろいろなことを経験して食欲に吸収できたのは、とてもいい経験になりました。ありがとうございます。

### 岩崎葵 さん (国際経営学部2年)

こんにちは、私は2023年8月にネパールで開催されたユースコンボケーションに参加させていただいた岩崎葵と申します。



本日はこうして皆さんに私たちの活動の報告できることをうれしく思います。今回で AYC の例会に参加するのは二回目なので、まず自己紹介からさせていただきます。学のボランティアサークルひつじくもに所属しています。また、

中学校の時にバレーボールをやっていたので、大学生になった今、またバレーボールサークルにもはまって運動しています。ちなみに、高校生の時はチアダンスの強豪校に入っていて、全国大会出場まで果たしました。コロナ禍によりみんなで集まって練習ができなかったり大会もビデオ審査になってしまったりしたことはあったのですが、その分仲間とたくさん話して団結力を深められたことは今では素敵な思い出です。

そんな私がこうしてボランティアサークルに入ったきっかけは、人のためになることを自分で何かしたいと思ったからです。ボランティアは無償で行われる活動であり、社会や地域に貢献する機会です。そういった活動に参加する人たちは、他者を支えることによって社会に対してポジティブな影響を与えたいという意欲を持っている人が多いです。今回の活動もそのような意欲を持ったアジアユースがたくさんいると感じました。今までそういった活動をあまりしてこなかったのが、私自身が一歩前進できる良い機会になりました。活動を通して学んだことは後ほどまた述べます。

最初に、私たちが今回学ぶ舞台となったネパールのカトマンズという都市について説明します。私がカトマンズに



行って一番驚いたこと、それは意外にも日本語を理解できるネパール人が多いことです。今回滞在したカトマンズのホテルの周辺は栄えている土地でした。出店が並び、現地のお店の人は観光客に声をよくかけていたので

すが、「こんにちは」や、「いらっしやいませ」などの日本語が聞こえてきました。正直、ネパールは日本人観光客が多い国ではありません。ほかのアジアの国と比べても少しマイナーな観光地です。そんな国であるにもかかわらず、こうして日本語を話せる人が多いというのは私にとってとても驚くべきことでした。私は、ネパールの言葉は今回の旅で覚えたいいくつかのあいさつ程度だったので、勉強しようと思いました。

また、電車が通ってなくて自動車や自転車の交通量が多いことも特徴のうちの一つだと思いました。日本では、都会だと電車移動の人が多くてプライベートの車は少ないように感じます。歩道を歩いているとその十センチ右には車やバイクが通っている、そんな状況だったのに、意外



にも事故が少ないことにも驚きました。交通面でも異文化を感じる事ができました。そして、私がネパールに数日間滞在するうえで慣れるのに一番苦労したことは、トイレです。床がだいたい濡れていたののでトイレに行くときは必ずズボンや膝までまくってからはまわっていました。日本のトイレは世界の中でもきれいなものなのだと改めて感じさせられたのが今回の収穫の一つでもあります。日本のこの文化は何としてでも守っていきたくと思いました。

また、やはり食文化の違いも感じました。ネパールはスパシーな料理が多く、ホテルのビュッフェも香辛料が効いたものが多くありました。もちろん辛い物だけではありませんでしたが、日本のホテルのビュッフェとの違いを感じました。また、物価がとても安く、レストランに行ってみなでたくさん料理を頼んでも日本の料金の半分ほどに感じました。

次にセッションについて話します。私たちは、活動の中で他国のアジアニュースのメンバーとセッションで話す活動をたくさんしました。今回はその中でも二つに絞って話したいと思います。

一つ目は、“自分が影響を受けた人と自分が影響を与えたい人について”です。私はその時、影響を受けたのは両親で、影響を与えたいのは弟妹だと述べました。私は生まれてから両親にたくさん影響を受けてきました。私のお父さんは大学時代に世界一周旅行をバイクでしていました。海を渡る時はバイクを分解して先に船で送ってから渡航先で組み立てて旅行をしていました。また、母は高校時代に一年間カルフォルニアに留学し、大学時代には台湾にも留学をしていました。両親のこの外交的な経歴や考え方は私に今でも影響を与えています。たくさんの海外や文化に触れてきている父と母の広い視野での考え方や物事の見方には、尊敬の意を表しています。これらのことから私に影響を強く与えていると思うのには私は自分の両親を挙げます。

次に、影響を与えたいと思う人です。私が影響を与えたいと思うのは、私の弟妹です。理由は、姉としていゝ影響を与え返したいと思うからです。私の弟は幼稚園のころからサッカーを続けており、地域の選手にも選ばれていました。また、高校に上がった去年には一年間台湾に交換留学生として学びに行っていました。私の妹は小学生のころから中学生になった今までチアダンスの全国に通用するような強豪クラブチームに所属しています。週五回練習し、数々の大会で成績を残しています。私は両親に加えて弟妹にも大きく影響を受けています。そんなわたしが影響を与えたいと思うのは、自分も姉として弟妹にいゝ影響を与えられる存在でありたいからです。願望になってしましますが、自分がこういった活動に参加していることが人に影

響を与えることができれば今回頑張る意義が増えると考えます。

このような内容を私はセッションで述べました。二つ目は、自分が政府として新しく事業を始められるとしたらどのようなことをするか、についてです。私はこのセッションで他国のアジアニュースの意見を聞いて国家の違いを大きく感じました。政府としての事業を始めるとして考えたときに一番最初に考えるのは国の問題点です。教育やフードロス、スポーツ文化やSDGsの未解決問題、などそれぞれの国が抱える問題はそれぞれ違います。それら問題を解決するための事業、という順で考えると問題点も多種多様だと考えました。私が事業として改革したいと思ったのは日本の英語教育です。今回のプログラムに参加して改めて日本人はやはり実用英語に欠けているのではないかと感じました。これを解決するために、教育制度において以下の点を考慮することが重要だと考えます。通訳や文法のみならず、コミュニケーション能力を向上させるための授業を導入することが重要です。ディスカッションや発表の機会を増やし、生徒たちが実際に英語を使用する機会を提供します。また、実践的な教材の活用として、日常生活



活で使われる英会話やビジネス英語、観光英語など、実践的なシチュエーション

に即した教材を積極的に取り入れます。生徒たちが学んだ知識を実際の状況で活用できるようになります。そして、外国人講師の導入を検討し、生きた英語を身近に感じる機会を増やします。リアルな発音や文化の理解を得ることで、学習意欲が向上する可能性があります。さらにオンライン学習プラットフォームを活用して、生徒たちが自分のペースで学習できる環境を整えます。多様な教材や練習問題、発音練習などがオンラインで提供され、柔軟な学習が可能で

す。そして、大学に入って思うのは留学プログラムを積極的に推進し、海外での実地経験を通して英語の実践力を高める機会を提供することです。また、留学先での語学研修やインターンシップを組み込むことで、実用的なスキルの向上が期待できます。

最後に、評価方法を、文法の正確性だけでなく、コミュニケーションや応用力も評価できる形に変えることが必要です。実践的な能力を育成するために、多角的かつ継続

的な評価手法を導入します。これらの取り組みにより、生徒たちが英語を実用的に活用できるような教育環境が整い、実用英語の向上が期待できるのではないかと思います。これらすべてをあの時に自分の英語で伝えられたかはわかりませんが、私たちの将来に大切なことだと強く思われました。

最後に、今回のプログラムに参加して感じたことをまとめようと思います。まず、今回のようなプログラムに参加しようと思った理由を説明します。

国や地域の生活様式、価値観、信念などに触れ、広い視野を持つことができるようになりたいと思ったのが最大の理由です。またそれ以外にも言語スキルの向上は、現地の言語を使う機会があることで、語学スキルが向上します。日常的なコミュニケーションやプロジェクトへの参加を通じて、新しい言語を習得する経験が得られると考えました。

また、大きな理由として、人間関係の構築です。現地の住民や他のボランティアとの交流を通じて、新しい友人や国際的なネットワークを構築する機会があります。これにより、異なるバックグラウンドを持つ人々とのつながりを生みみたいと考えました。実際、他国のメンバー、もちろん日本から参加のメンバーとも連絡先を交換したりして人脈を広げることができました。そして、このプログラムは大きく自己成長につながると考えました。困難な状況や新しい環境に直面することで、自己克服の機会が増えます。新しい状況に適応し、柔軟性やリーダーシップのスキルを向上させたいと思い、実際そうなったと周りに認めてもらえていたらうれしいです。

そして、社会的な目標としてはボランティア活動を通じて、他者に対する貢献や助け合いの重要性を実感します。自分の力で社会に寄与することができるという達成感が得られます。現地の課題に対する取り組みを通じて、持続可能な開発に貢献する機会が広がります。地域社会の発展に寄与することで、持続可能な影響をもたらすことが期待されます。今回地域の施設に訪れたことは私たちにも相手方にとっても影響があったことと感じます。これら私の目標やきっかけを達成できたと少しでも思えたことが自分の成長につながったと信じています。

しかし、今回のプログラムで一番悔しかったことは自分の英語力の低さです。自分の考えをはっきり他人に伝えるためには世界共通語である英語の取得が必要であり、改めてそれを感じるいい機会になったし、他国の語学にたけているメンバーの存在は目標にもなりました。グローバルに活かされる人材になるためにも学業に励もうと思えました。そして、自国のことをもっと知る必要があるとも思いました。自国の文化を知ることは、自分自身のアイデンティティを理解し確立する一助となります。言語、習慣、伝統

などを知ることで、自分がどこに属しているのかを認識しやすくなります。また、他の人々や異なる文化に対する理解と尊重が生まれます。

異なるバックグラウンドを持つ人々との対話が円滑に進み、対立を避ける手助けとなります。また、アニメや他国で有名なものを知っておくと人々とのコミュニケーションがスムーズになります。先ほど述べたように共通の言語や慣習を理解していることで、意思疎通がより効果的にもなります。そして何より自国の文化を知ることで、それが持つ多様性や豊かさに気付くことができます。伝統的な食べ物、音楽、芸術、祭りなど、自国独自の文化的な要素に触れることで、新たな発見があります。私は日本のことをもっと知りたいと思うようになりました。

今回のプログラムに参加して私は多岐にわたる方面で成長できたと胸を張って言えます。二十歳の夏に経験できたことを一生ものにしてできるようにこの気持ちを忘れず今後生きていきたいと思いました。

最後になってしまいましたが、今回このような機会をくださった AYC 関係の皆様、また、支援してくださったすべての方々には感謝してもきれません。今後も志を持って努力を続けていくことをここに誓い、私からの報告とさせていただきます。

## 司会 長谷川あや子さんの言葉

衣笠さん、各地の AIC 参加者の報告会に全部出ていらっしゃるって、今日は埼玉からいらしてくださったんですが、いかがでしょうか？

## 衣笠輝夫さまの講評

今までの報告をずっと聞いていてすごく印象に残った共通のことは、一つは言語の壁ということですよ。

先ほどの話もありましたが、自分で思っている英語の表現ができないために、なかなかに引っ込み思案になってしまう、そういうことが最初感じられた。

そのことを乗り越えてどうしたらいいの？

流暢な英語を話す必要はなくて、正しい英語でも表現や表情、どうしたら伝えることができるんだということを感じた方も多かったんじゃないでしょうか？

先ほど丸山君の話が出てきましたが、彼もいろんな場を盛り上げるリーダー経験があるからできたと思うんですが、彼も自分の意見や考え方をディスカッションの中で表現するのはすごく難しいと言っていました。これはやはり経験だと思んですが、教養のための英語じゃなくて、生きるための英語というのは本当にそうなんですよね。

英語を話さなければいけない背景の中で英語を話している、そういう国が東南アジアでも増えてきていますので、相対的に日本人の英語のコミュニケーション能力はずっと下がり



つばなしなんですよね。

それをどういふふうに変えていくか、全体的には難しいでしょうが、一人一人の意識をポジティブに切り替えていく、その賓とが先ほどのマークの話の中に全部あったんじゃないかな、という気がします。

自分たちの表現をする。その表現力とプレゼンテーションする時の仕方とかですね。それを自分の意見を伝えていく大きな方法ですので、今日聞いていてとてもよかったなと思いました。



講話を総括する衣笠輝夫さま

## 東京YMCA 近況報告 12月 菅野牧夫

1. 10月28日、「山中湖センター100周年記念感謝会」が山中湖センターで開催され、会員、山中家族キャンプ関係者、山中湖村関係者、近隣YMCA関係者、リーダーOBOG、現役リーダー、職員など、約83名が集った。第1部の記念礼拝では堀光雄牧師(山中家族キャンプチャプレン)に奨励をいただき、第2部では、青山鉄兵氏(文教大学人間科学部准教授／東京YMCA評議員)より「YMCAキャンプの持つ力」と題して記念講演をいただき、好評であった。第3部では食事をとりながら、レクリエーションやキャンプソング等の交流の時間を持った。
2. 11月3日、「全体職員研修会」が東陽町センター、及びオンラインで開催され、東京YMCAグループの職員277名が参加した。阿部頼義氏(グレースガーデンチャーチ牧師／難民医療支援会プレシオン代表)に「隣人愛の精神と実践～教会・難民支援の現場から」と題して基調講演をいただいた後、約40のグループに分かれて、感想等を分かち合う時間を持った。
3. 11月6日～8日、「第21回ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会」(SIT)が「神の視点と聖書の知恵から現在の経済状況に向き合う」のテーマで、台北YMCAを会場に開催された。3都市YMCAの役員、会員、職員など50名が集い、東京YMCAからは榎原正人理事、菅谷淳総主事他、計8名が参加した。基

調講演、各YMCAの活動報告、青少年教育施設の視察などを通して、相互の学びと交流がはじかれた。

4. 11月10日、「2023年度賛助会年会・アドバイザー会」が芝パークホテルを会場に開催され、賛助会会員、東京YMCAアドバイザー、役員、運営委員、職員など計42名が出席した。氏家純一賛助会長(株式会社氏家経済研究所代表取締役)の挨拶、菅谷淳総主事の事業報告に続き、永年継続賛助会員13社の表彰と新入会員2社の紹介があった。第2部では「市民が紡ぐ平和」と題して目加田説子氏(中央大学総合政策学部教授)から講演をいただいた。
5. イスラエルとパレスチナの武力衝突が激化しているが、世界YMCAの緊急支援の呼びかけを受けて、日本全国のYMCAで「パレスチナ緊急支援募金」を開始した。募金は、以前から紛争下にあるこの地域の平和を願い活動をしている3つのYMCA(ガザYMCA、東エルサレムYMCA、エルサレム・インターナショナルYMCA)が行う人道支援活動のために用いられる。
6. 11月16日、「YMCA・YWCA合同祈祷週礼拝」が東京YWCA、在日本韓国YMCA、東京YMCAの共催で開催され、山手センターとオンライン、合わせて55名が参加した。李省展(イソベジョン)氏(恵泉女学園大学名誉教授／在日本韓国YMCA理事)から「手を取り合って境界を越える」と題して奨励をいただいた。
7. 11月18日、「国際協力一斉街頭募金」を新宿駅周辺で4年ぶりに実施した。会員、ユースボランティア、学生、メンバー、職員など、133名が街頭に立ち、バングラデシュ、ウクライナ、パレスチナへの支援を呼びかけ、235,265円が寄せられた。
8. 今後の主な行事予定
  - ・「山中湖センター100周年記念チャリティーゴルフ」  
12月7日(PGM総成ゴルフクラブ)
  - ・「山中湖センター100周年記念チャリティーボウリング」  
2月4日  
(ボウリングサロン・ザプリンスパークタワー東京)
  - ・「第9回日中韓YMCA平和フォーラム」  
2月1日～4日(上海)
  - ・「バングラデシュスタディーツアー」2月8日～17日  
(ダッカ、ダハバラ他)
  - ・「ソシアスフォーラム2023」2月17日  
講師:佐渡加奈子氏(認定NPO法人カタリバ／東京YMCA評議員)
9. 深悼 謹んで哀悼の意を表します。  
金秀男氏(前在日本韓国YMCA総務・YMCA史学会理事) 11月15日召天 享年73

## わくわくビレッジ便

担当主事 菅野牧夫

わくわくビレッジ周辺の山も紅葉の色が濃くなってきました。しかし、通常の年と比べると紅葉の進みが遅いように感じます。地球温暖化が加速しているようで心配です。

11月12日(日)にわくわくフェスティバルが行われました。2022年度、2021年度は規模を縮小して開催され、2020年度は余儀なく中止でしたので、フル開催は4年ぶりとなりました。今年度フェスティバルのプログラムには、ふれあい動物園、走り方教室、プログラミング教室など子どもたちが楽しめるイベントが新たにラインアップされました。久しぶりのフル開催で、わくわくビレッジは1日中賑わいました。通常、フェスティバルの日は原っぱをつぶして駐車場にしますが、当日は駐車場がいっぱいになるほどのお客様がいらっやいました。たくさんのお客様が集中して来館したため、受付などでは時間がかかり迷惑をかけてしまいましたが、遊びに来た子どもたちはいろいろなプログラムに興奮しながら楽しそうに参加していました。

わくわくビレッジが開設して、来年度で20周年を迎えます。東京都との契約も来年度をもって一旦終了します。来年の春頃には東京都から新しい業務水準が発表され、夏以降にこちらからの提案をし、契約更新に進んでいく予定です。今、京王の関係者と契約更新に向けて検討会が進められています。検討会では、わくわくビレッジの閑散期を狙って他施設の視察をスタートさせます。いろいろな取り組みを行っている施設があり、楽しみです。今わくわくビレッジの問題点は、自然環境やSDG'sを取り上げた体験プログラムが少ないことと、予約方法や予約管理が複雑なことです。この辺のところを中心にお話を聞き、何か次期の運営で参考になるようなことが見つかることを期待しています。



子牛と戯れる菅野館長

## ひっじぐも便

今年度副委員長・3年 森脇啓心

18日の児童館ボランティアでのクッキングに参加した話をさせていただきます。この活動は児童館の子供達とともに食事を作るというもの。

お品書きはチャーハンに野菜スープ、そしてフルーツポンチ。このメニューを聞いただけでも子供たちは夜が眠れなくなるであろう程いいメニューだ。特にフルーツポンチ。芥川龍之介の『芋粥』で五位が芋粥をたらふく食べることを夢見ていたように、すべからず子供たちはフルーツポンチをたらふく食べたいと給食の時間に思うものだろう。

言い過ぎかもしれないけど、その様なことを思いながら迎えた当日、皆で駅に集合し見慣れた道を歩いて児童館へ向かう。実は私、クッキングに参加するのは2回目、前回は小学生が5人ほど参加していた。今回はどれくらいの子供が参加しているのかについてから確認してみると、どうやら今回は皆中学生で6人が参加するらしい。

そして調理START。前回は小学生が相手という事もあり包丁などを使う際は気を使ったが、今回は中学生。さすがに手際よく調理は進み、予定よりも早く調理は終了。そしてお待ちかねの食事の時間。

「…美味しい!」。やはりというかなんとというか、自分で作った食事というものは苦労や疲労、空腹が相まって何倍もおいしく感じる。フルーツポンチもおいしい。給食で半ば喧嘩になりながらフルーツポンチを取り合ったあの日をふと懐かしく思い出す味だ。こんなことを思いながらボランティアは終了。

最近では就活ばかりで刈上げ頭のスーツの男や顔採用なんじゃねえかと思うような女性社員の話ばかり聞いてうんざりしていたが、子どもたちと話すことでそれも少し紛らわすことができた。料理するのは気分転換に良いのかもかもしれない。そんなことを学んだような1日であった。

皆さんも「料理」、どうでしょうか?





## 【クラブ 11月第一例会報告】 書記：小口

日時:2023年11月11日土 18:00-20:00

会場:北野事務所2F

出席者(敬称略):長谷川、菅野、佐藤、小口、久保田、久保田佐和子、並木(真)、望月、花輪、並木信一、大久保、山本、

ひつじくも:轟千佳(AYC 報告者)、藤原湧介(AYC 報告者)、藤原直輝(AYC 報告者)、森脇啓心、折原美結、  
ビジター:衣笠輝夫(埼玉) ゲスト:酢屋善元 (会場、19名)

ZOOM 参加者・本川悦子(東京西クラブ会長)小仁恵子(東京グリーン)、

プログラム進行:司会、長谷川(A班)

### ・卓話「AYC2023 ネパール大会・参加報告」

概要:ネパール首都カトマンズのYMCAの会場、アジア地域38名(ネパール5名、タイ2名、香港11名、台湾4名、日本16名)8月25日~29日。

派遣されました5名のうち、田中大翔さんはご健康上の理由で、岩崎葵さんは他の会合と重なって、欠席でしたので、感想を後日報告して頂くことで、この日3人にプロジェクトによって、藤原(湧)さん、藤原(直)さん、轟さんの報告をお聞きました。(発表内容は、ブリテン12月号に文章で掲載されます)。報告の概略として、轟千佳さんは、講演をしっかりと聞いて、未来志向型リーダーとなって社会奉仕活動の効果を最大にすること、その中で現代社会の中の若者の役割は、を考えられたとのこと。

藤原(湧)さんは、タイの友達が出来たことが嬉しかった。2日目の日本文化紹介をしたとき、予想以上に皆、日本のことを周知していたのは驚いた(特に食文化のこと)。目的を持ったボランティア活動は何かを強く考えさせられた。藤原(直)さんは、ネパールと日本の経済と教育の格差があまりに大きく、その差にはびっくりでした。何故こんなにもネパールは英語教育が発展しているのか、それは社会制度にも教育にも高額費用が掛かりすぎるので、結果として最終的には「個人して生きのびていくための最大の手段」であるからとのこと。

卓話の最後の総評として、最初に久保田貞視さんの感想、「3人とも素晴らしい発表で、聞いていて大満足だった、素晴らしいかった、自分の事として捉え、考えていた」。衣笠直前ユース事業主任の感想「これまで全部のAYC報告を聞いてきたが、3人とも違った角度から素晴らしくしかもまとめられていた内容だった。今日の話は全部、AYCグループ全員にもラインで報告させていただきます」

\*ユース事業委員会として、最後に追加させていただきますと、今回の派遣費用が、一人当たりが約18万で多額でした。今回は初めて、ワイズのJEF基金(ワイズ個人個人の寄付金)から衣笠輝夫ワイズのご尽力により、東日本区13名全員に、JEF基金から総額で520,000円が支援されました事感謝です。

### ・YMCA諸報告・菅野担当主事

11月12日(日)わくわくフェスティバル、鉄道模型の1500両を会議室に展示、操作。

11月18日(土)12時~JR新宿駅周辺で国際協力街頭募金。

東京YMCA山中湖センター100周年事業募金中。

・ハッピーバースデー・山本英次さん、花輪豊子さん、藤原直輝さん

・スマイル・・・9,500円

・閉会点鐘 並木真会長

## 【クラブ 11月第2例会・報告】 書記:小口

日時:2023年11月25日(土) 18:00-20:00

会場:北野事務所2F

出席者:長谷川、菅野、佐藤、小口、久保田、並木(真)、望月、花輪、並木信一 9名

### 八王子クラブ関連

- ① クリスマス例会一担当B班久保田: 日時:12月9日(土)17時~会場 大学セミナーハウス  
会費: ¥2,500円 メネット・ゲスト3,500円、学生500円  
1部 クリスマス会: 司会(望月)メッセージ千原創(はじめ)牧師(八王子ベテル教会)  
2部 祝会: 会食と演奏: 司会(久保田) ピアノ永町匡世さん、バイオリン阿部智世さん  
出席予定者・A班/長谷川、菅野、佐藤、小口、B班/久保田・メネット、望月、並木(真)  
C班/並木(信)・メネット、山本、大久保  
ひつじくも・森脇、関口、折原  
ビジター・田中博之、直美(多摩スマイル)、藤田智、藤田恵美、(多摩スマイル)、野々垣健五、佐藤重良、野々垣和宏(甲府21)、  
ゲスト・千原創牧師、永町匡世、阿部智世、酢屋善元、柳原絵理子、柳原里咲・・・28名
- ② 12月第2例会(B班) 12/23(土)北野事務所
- ③ 1月第1例会(C班) 1/27(土)北野事務所
- ④ 2月第1例会(A班) 2/24(土)

- ⑤ あずさ部第2回評議会・ホスト・八王子クラブ 会場:高尾の森わくわくビレッジ  
2024年2月10日(土)受付 12:30、評議会/グループ協議 13:00～、懇親会 16:00～18:00  
評議会ネーミングは、「桑都(そうと)評議会」。
- ⑥ チャリティーコンサートと街頭募金・CS担当 花輪  
A. **街頭募金 2024年3月2日(土)13時～**  
JR八王子駅北口、事前の八王子警察署への届を並木(信)、当日の提出は交番へ  
横断幕、募金箱の用意と箱に付けるA4用紙の印刷など。ひつじぐもの応援依頼。
- B. **チャリティーコンサート 2024年3月9日(土)14時～**  
～ 北野市民センター8階ホール  
タイトル:「スプリングコンサート～奈良原繭里ソプラノコンサート 弦の調べとともに」  
出演:奈良原繭里(ソプラノ)、笹川哲史(バイオリン)、中山博之(ピアノ)  
(b)コンサートの前半のJCBL講演を、JCBLの代表の方依頼・久保田。  
(c)街頭募金・コンサート、チャリテイの主旨→収益金の使途  
「対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために」→JCBLに寄付  
「ウクライナ避難者支援のために」→日本YMCA同盟に寄付  
(d)チラシ1,500枚、ポスター30枚、チケット500枚作成中。
- ⑧ 八王子30周年記念会・実施で決定。日時:2024年10月26日(土)、会場、会費は未定。
- ⑨ 山中湖センター100周年記念事業へ寄付→クラブから30,000円。

**その他の報告**

- (イ) 熱海クラブ(富士山部)60周年、11月26日・長谷川。
- (ロ) 白羊会(ひつじぐもOB)クリスマス会 12月2日
- (ハ) 松本クラブ35周年、アジア賞授賞式、12月10日・長谷川
- (ニ) 在京ワイズ合同新年会 2024年1月13日(土)  
13:30～16:30 YMCA 東陽町センター  
参加者:並木(真)、花輪、久保田、長谷川、小口。  
同日の会長会・並木真出席

**今月の聖句:12月度**

人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町、ナザレからユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上っていった。身ごもっていた、いしなずけのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。

宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。  
(新約聖書・ルカによる福音書 2:3~7)

**クリスマス礼拝メッセージ**

**八王子ベテル教会 千原 創 牧師**

山口県出身 関西学院大学神学部卒業  
広島主城教会 興部教会(北海道) 境南教会(東京)を経て、現在 日本キリスト教団八王子ベテル教会牧師及び社会福祉法人牧羊会 八王子ベテル保育園 理事長・園長兼務

**先月の例会ポイント (11月)**

在籍	13名	切手	45g
		23年度	
		計45g	
メン	11名	現金	0円
メイキャップ	0名	累計	0円
出席率	84%	スマイル	9,500円
メネット	1名	累計	58,130円
ゲスト	1名	オークション	0円
ビジター	1名	累計	0円
ひつじぐも	5名		
Zoom参加者	2名		

**今月お誕生の方  
メンバー対象者なし**



## 久し振りの白門祭へ参加して

大山 希

白門祭について私からお伝え致します。

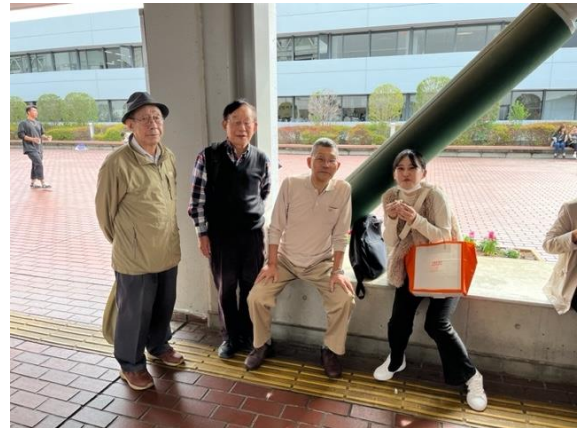
私たちひつじぐもは、11月3日から11月6日まで、多摩キャンパスにて開催された白門祭で飲食の出店を行いました。私自身は昨年この功のサークルで出店を経験していましたが、ひつじぐもは昨年白門祭で出店しておらず、4年ぶりにお店を開くことになりました。そのため、サークルに所属するみなが右も左もわからない状態でスタートしました。

今年は、「国際色を出していきたい!」という気持ちから、トルティーヤを作って売りました。トルティーヤは2年生が発案し作ってくれ、正直はじめは「そんな複雑なもの大丈夫かな」と心配していましたが、代替わり期間だったこともあり、2年生の意向を優先し取り組んでもらいました。材料や値段帯について考え相談しながら進め、味は、醤油、塩、ソースの3つとなりました。当日、私は醤油と塩で食べましたが、塩が人気ようで、とても美味しく出来上がりました。

小口さんと山本さん、花輪さんにもお越しいただき今のサークルの雰囲気もお伝え出来てよかったです。また、準備期間・出店期間全体を通じて、後輩の成長を感じることができたことも、個人的にも良かったと思います(※3年生は就活等あるためなかなか参加が難しく、私も手伝える日が限られていました)。

私自身、ひつじぐもは他のどのボランティアサークルよりも真面目に、活発に活動していると自負していますが、親睦を深めるような交流会が少なく、2年生や1年生の交流の機会が今まで多くありませんでした。報連相や役割分担など様々な問題もありましたが、そのような同輩同士の交流の少ない中で、お互いを知るところから始め試行錯誤しながら白門祭という一大イベントを成し遂げたことは、大きな成長になったと感じています。また、下級生同士での交流も増え、嬉しかったです。

来年も白門祭で出店をする予定なので、皆様もぜひいらしてください。ありがとうございました。



ひつじぐも OB 白羊会のみなさま



元気な店員さん



おまけの一枚 (11月誕生の方)

花輪豊子さん 山本英次 藤原直輝 君